

血流感染マネジメントバンドル2024の紹介

◆血流感染マネジメントバンドルとは？

医療現場におけるデバイス挿入患者のカテーテル関連血流感染（CRBSI）等の血流感染の予防と管理を目的とした、各部門の（医師、看護師、検査技師、薬剤師）一連の手順や感染対策をまとめた運用です。

◆血流感染マネジメントバンドルのメリット

各部門の予防策、運用を一つにまとめ（バンドル）より質の高い、感染対策を実施することができます。

インターネット上に公開されています。



プロセスバンドルは個々の患者に対する対応状況をチェックリスト式で確認し評価するものです。

主なチェックポイント

・採血部門

ex.採血後2時間以内に培養開始したか

・検査部門

ex.陽転後一時間以内にグラム染色実施

・AS（Antimicrobial Stewardship）部門

ex.TDMの投与計画の作成



病院全体の感染対策や、各部門での対応をチェックリスト式で評価するものです。

主なチェックポイント

・血培陽性時の検査体制

ex.休日、時間外での検査体制

・ICT部門

ex.血液培養の為のマニュアルが作成している

ex.教育体制がある



当院検査部での運用状況の紹介

検査部門 通常勤務帯

1	設で行っている	☒ Yes	☐ No
2	血液培養の標準手順書が作成されている	☒ Yes	☐ No
3	血液培養が陽性となったことを医師に報告する仕組みがある	☒ Yes	☐ No
16	血液培養陽性検体について、医師が最終報告を確認したことを微生物検査室で確認する仕組みがある	☐ Yes	☒ No

チェックボックスの「Yes」「No」の総数を母数として「Yes」を分子として遵守率を算出します。

当院検査部門の現時点での遵守率

プロセスバンドル	70%
ストラクチャーバンドル	50%

改善に向けた協議の一例

●通常勤務帯に関する項目（ストラクチャーバンドル）

Q1：血液培養陽性検体について、医師が最終報告書を確認したか確認する仕組みがある。

⇒重要な検査結果閲覧の失念を防ぐ取り組みであり、現時点で確認する仕組みが無いため、電子カルテまたは検査部門システムで検査依頼医が最終報告を確認した時点で「閲覧済」等の表記が出るように電子カルテ、検査部門システムの担当者と協議を行う。

検査部門では血流感染マネジメントバンドルを活用し、血液培養の運用改善に取り組んでいます。当院での血流感染マネジメントバンドルの浸透はまだまだ浅いですが、活動を継続して感染症医療の向上と、血液培養検査の質の向上を図りたいと考えています。